

日本農業研究所賞の推薦依頼

「日本農業研究所賞」受賞候補者の推薦をお願いします。

（公財）日本農業研究所から、第 31 回（令和 5 年度）日本農業研究所賞の受賞候補者の募集が参りましたので、お知らせします。

詳しくは以下のホームページを御覧ください。

（ホームページの URL）

<http://www.nohken.or.jp>

学会賞選考委員会にて推薦を受け付けますので、推薦のある方は下記にてご応募ください。

締切日：11 月 1 日（水）

自薦・他薦とも様式（上記ホームページからダウンロード）に記入のうえ事務支局 (wssj@nacos.com) までお送りください。

※希望者が複数の場合は、学会賞選考委員会にて推薦者を決定いたします。

日本雑草学会会長 様

公益財団法人 日本農業研究所
理事長 田 家 邦 明

(公印省略)

第 3 1 回 (令和 5 年度) 「日本農業研究所賞」受賞候補者の推薦依頼について

謹啓 愈々御清適のことと大慶に存じあげます。

さて、本研究所は、昭和 4 0 年度より「日本農業研究所賞」を設け、わが国農業の発展のため学術研究上の顕著な貢献をした者に対して、表彰の事業を行って参りました。

本賞の目的とするところは、別添「日本農業研究所賞表彰規程」に明記されているとおり、わが国農業の発展のため、学術研究上顕著な貢献をなした者を表彰し、その研究業績が今後の農業の発展はもとより、豊かな食生活の形成や農山村の活性化等にも貢献することを期待しようとするものであります。

このような表彰の趣旨に即し、かつ、優れた業績をなるべく広く表彰することにしたいと考えております。したがって、過去において既に国際的な賞、日本学士院賞などの大賞を受けた業績は、原則としてこの賞の対象から除外するよう取り計らい、できるだけ幅広く候補者の御推薦を頂くよう期待するものであります。

(注)

なお、この表彰は隔年ごとに行い、それぞれ 3 件以内につき行っております (賞金として、1 件につき 1 0 0 万円贈与します)。

以上により、第 3 1 回 (令和 5 年度表彰) の受賞候補者の募集をいたしたく、御多用中恐縮に存じますが、候補者を御推薦下さるよう御願い申し上げます。

なお、御依頼先が、学会、団体等の機関の長等である場合には、機関としての御推薦である必要はなく、その機関の会員等、当該機関に属する個人の資格において御推薦を頂くことも差し支えありませんので念のため申し添えます。

(注)選考の結果、受賞該当者が 3 件に達しないこともあります。

敬具

[要領]

1. 御推薦は、1 件ずつ、同封の受賞候補者推薦書の各欄に記入の上、御送り頂きます。送付方法は、推薦書の様式が日本農業研究所ホームページ (<http://www.nohken.or.jp/>) から入手できますので、御記入の上、捺印し、郵送して下さい。併せて推薦書を電子ファイル (Word 又は一太郎形式) で kenkyu@nohken.or.jp のアドレスにお送り下さい。
2. 同一業績につき複数の者を御推薦頂くことは差し支えありませんが、その際はその理由を必ず明記して下さい。
3. 御推薦者 (又は代理者) には、①選考上必要な場合に研究業績に関する資料の提出又は②選考委員会に御出席願ひ受賞候補者の業績紹介を行って頂くことがあります。なお、選考委員会御出席に際し、旅費は当方で実費を負担させて頂きます。③同一の受賞候補者について複数の御推薦者から御推薦を頂いた場合には、推薦者間で代表して業績紹介をして頂く方を選定し行って頂きます。
4. 推薦書は、令和 5 年 11 月 30 日 (木) までに到着するよう御送り下さい。
5. 推薦書の送り先 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3 番 29 号

公益財団法人 日本農業研究所

『日本農業研究所賞』案内

東京都千代田区紀尾井町3番29号

公益財団法人 日本農業研究所

電話：03-3262-6351

FAX：03-3262-6355

<http://www.nohken.or.jp/>

1. 日本農業研究所賞とは

この賞は、(公財)日本農業研究所が定款の定めるところに従い、「農業に関する学術研究上の顕著な貢献をした者」を表彰し、その研究業績が今後の農業の発展にも貢献することを期待するものです。昭和40年度が第1回目で、概ね隔年度毎に実施され、今回は第31回目に当たります(参考資料—過去の受賞者一覧)。毎回の受賞者は、推薦による受賞候補者の中から選考決定され(3件以内)、1件当たり100万円の賞金が授与されます。

農業に関する学術研究は、その専門分野が多岐にわたり研究組織も多数に上ることから、本表彰事業の趣旨を幅広く適正に実現するため、受賞候補者の推薦及び選考につき次のように行っています。

①受賞候補者の推薦について、官・民、中央・地方の農業に関する学術研究を行う大学、試験研究組織にお願いするほか、いわば研究成果の利用評価の可能な農業団体、マスコミ、行政にも広くお願いし、合計430余りの組織等に推薦を依頼しています。また、推薦期間も約半年間の長期に設定しています。②受賞者選考については、日本農業研究所賞表彰規程に基づき、理事会が農業に関する学術研究の主な分野を代表する選考委員を委嘱し、選考委員会で受賞候補者を選考し、理事会で受賞者を決定します。

(参考) 選考スケジュール (第30回の例)

令和3年11月30日 募集締め切り

令和4年3月4日 受賞候補者の決定(選考委員会)

令和4年3月15日 受賞者の決定(理事会)

2. 公益財団法人日本農業研究所定款(抄)

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、公益財団法人日本農業研究所(以下「研究所」という。)と称する。

(事務所)

第2条 研究所は、主たる事務所を東京都千代田区に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 研究所は、農業及び農村に関し、必要な調査研究を行うとともに、その成果を普及することにより、学術及び国民経済の発展に貢献することを目的とする。

(事業)

第4条 研究所は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 農業及び農村に関する調査研究
- (2) 農業及び農村に関する調査研究の成果の普及
- (3) 農業及び農村に関する調査研究の助成
- (4) 農業及び農村に関する学術研究上の顕著な貢献をした者の表彰
- (5) 不動産の貸付け
- (6) その他研究所の目的を達成するために必要な事業

2 前項に掲げる事業は、日本全国において行うものとする。

(以下省略)

3. 日本農業研究所賞表彰規程

- 第1条 公益財団法人日本農業研究所定款第45条の規定に基づき、本規程を定める。
- 第2条 日本農業研究所（以下「本所」という。）は、農業に関する学術研究上顕著な業績をあげ、斯学の発展に多大の貢献をなした者を表彰するため、その者に対し、日本農業研究所賞（以下「本賞」という。）を授与する。
- 第3条 本賞は、賞状及び賞金とし、賞金の額は、1件につき100万円とする。
- 2 共同研究の場合の賞金の額は、第1項の賞金の額と同額とする。
- 第4条 本賞の授与は、隔年、3件以内につきこれを行う。
- 第5条 本所は、本賞受賞候補者（以下「候補者」という。）を広く求める趣旨により、農学に関する学会・大学・研究機関・団体および個人に対し候補者の推薦を依頼するものとする。
- 第6条 本所に、候補者を選考し決定するため、公益財団法人日本農業研究所賞受賞候補者選考委員会（以下「選考委員会」という。）をおく。
- 2 選考委員会は、10人以上15人以内の委員をもって組織する。
- 3 委員の委嘱は、選考の都度広く学識経験のある者のうちから、理事会の議を経て理事長が行う。その場合、理事長および理事以外の学識経験者が半数以上を占めるものとする。
- 4 選考委員会には、委員長および委員長代理をそれぞれ1人おき、委員長は委員が互選し、委員長代理は委員長が指名するものとする。
- 第7条 理事長は、当該年度の6月以降選考委員会を招集するものとする。
- 第8条 選考委員会は、必要に応じ、理事長と協議のうえ、専門委員を委嘱して特別の事項を審議させることができる。
- 第9条 委員および専門委員は、審査の経過を外部にもらしてはならない。
- 第10条 選考委員会の決定は、委員の3分の2以上の出席により、出席した委員の過半数をもって行うものとし、可否同数のときは委員長の決するところによる。
- 第11条 理事会は、選考委員会の報告に基づき、本賞の受賞者を決定する。
- 第12条 理事長は、当該年度の3月末日までに選考の結果を公表する。
- 第13条 本賞の受賞者の表彰式は、原則として、5月10日に行う。
- 第14条 この規程の施行についての細則は、別に定める。



日本農業研究所賞受賞者一覧（第1回～30回）

第1回（昭和40年度）

大槻正男：農家の経済構造ならびに経済活動に関する研究

第2回（昭和41年度）

石塚喜明

（共同研究）：作物、特に水稻の栄養生理に関する研究

田中明

第3回（昭和42年度）

西川義正：家畜の繁殖ならびに人工授精に関する研究

第4回（昭和43年度）

田島弥太郎：蚕の放射線遺伝学的研究とその応用

第5回（昭和46年度）

上坂章次：和牛の生産能力に関する基礎的ならびに応用的研究

定盛昌助：リンゴの優良品種ふじの育成に関する研究

松島省三：水稻収量の成立理論とその応用に関する研究

第6回（昭和48年度）

有馬啓：Mucor Renninの発見と研究

笠原安夫：耕地雑草およびその防除に関する研究

高橋治助：アジアにおける水稻の栄養生理的解析による多収技術の確立

第7回（昭和50年度）

嵐嘉一：水稻栽培技術体系の暖地的展開とその史的考証

近藤康男：日本農業の経済学的研究

細田達雄：家畜の血液型とその応用に関する研究

第8回（昭和52年度）

大森常良：牛の急性ウイルス病の防圧に関する研究

加用信文：わが国における農業経済統計の確立

福井重郎：ダイズの生理・生態学的並びに育種学的研究

第9回（昭和54年度）

川田信一郎：わが国における作物栽培の実態解明に関する研究

丹羽太左衛門：豚の繁殖と改良技術に関する研究

福田紀文

：蚕の人工飼料の開発と実用化に関する研究

伊藤智夫

第10回（昭和56年度）

石沢修一：本邦農地土壌の微生物学的研究

弥富喜三：害虫の生物学的及び化学的防除に関する研究

野村吉利：ニューカッスル病に対する新免疫方法（L-K法）の開発

第11回 (昭和58年度)

- 石 墨 慶一郎：水稻の良質多収品種の育成
西 野 操：柑橘害虫ヤノネカイガラムシの発生予察ならびに生物的防除の研究
山 田 芳 雄：放射化分析およびアイソトープトレーサ法の植物栄養・土壌肥料研究への応用

第12回 (昭和60年度)

- 江 崎 春 雄：穀類収穫機の開発に関する研究
西 貞 夫：組織培養の利用による野菜・花き育種技術の開発
古 島 敏 雄：日本農業史の研究

第13回 (昭和62年度)

- 坂 井 健 吉：高でんぷん超多収甘藷品種の選抜法の開発および新品種の育成
杉 江 侖：家畜の胚（受精卵）移植に関する技術開発研究
中 川 昭一郎：水田の用排水と圃場整備に関する研究

第14回 (平成元年度)

- 大 島 信 行：弱毒ウイルス利用による植物ウイルス病の防除
梶 井 功：戦後日本の農業経済・農業経営の発展・変化にかんする研究
小 林 勝 利：蚕の内分科学的な研究とその応用

第15回 (平成3年度)

- 阿 部 猛 夫：豚の系統造成法に関する研究とその実際的応用
玉 木 佳 男：性フェロモンによる害虫防除に関する研究
増 田 澄 夫：二条大麦（ビール麦）及び六条大麦優良品種の育成

第16回 (平成5年度)

- 飯 沼 二 郎：農業近代化の理論的・実証的研究
稲 葉 右 二：各種牛ウイルス病の防除技術の開発及び実用化に関する研究
本 多 藤 雄：促成栽培用イチゴの栽培技術の開発と“はるのか” “とよのか”等優良品種の育成

第17回 (平成7年度)

- 岡 田 吉 美：わが国の植物DNA研究における先駆的研究ならびに指導的活動
西 山 壽：暖地における水稻優良品種の育成
早 瀬 達 郎
栗 原 淳：環境にやさしい肥効調節型肥料の開発および施肥技術の確立

第18回 (平成9年度)

- 入 谷 明：家畜の繁殖ならびに体外受精に関する研究
江 塚 昭 典：イネの主要病害に対する品種抵抗性の先駆的研究とその利用技術の開発
川 嶋 良 一：農業技術研究の推進方策に関する論考

第19回 (平成11年度)

- 石 橋 晃：家禽のアミノ酸要求量に関する研究
内 嶋 善兵衛：農業生産における気候資源の利用技術の開発
貝 沼 圭 二：澱粉の高度利用化技術の開発に関する研究

第20回 (平成13年度)

尾 関 幸 男

:チホクコムギなど良質多収秋まき小麦品種の育成

佐々木 宏

駒 田 旦:フザリウム菌選択培地の創製とその応用によるフザリウム病の生態ならびに防除に関する研究

清 水 悠紀臣:豚ウイルス病の防除法、特に生ワクチン開発に関わる基盤技術の確立

第21回 (平成15年度)

市 川 友 彦

:大型汎用コンバイン並びに超小型自脱コンバインの開発

杉 山 隆 夫

岸 本 良 一:ウンカ類の海外長距離飛来の実証と防除技術の確立

真 鍋 勝:食品のマイコトキシン汚染の解明と防除

第22回 (平成17年度)

春 見 隆 文:微生物・酵素を利用した新規糖質甘味料の製造技術

西 浦 昌 男:カンキツ類の珠心胚利用及び交雑による新品種の育成

花 田 章:未成熟卵子を利用した反すう家畜の体外受精技術の開発

第23回 (平成19年度)

祖 田 修:農学原論の確立

三 輪 睿太郎:食料供給に伴う窒素の動態と環境影響のシステム解析

森 肇:カイコ多角体病ウイルスの構造解析と機能利用に関する研究

第24回 (平成21年度)

佐 伯 尚 美:米流通・米政策学と農協論の確立及び戦後日本農業政策に関する研究

土 屋 七 郎

:リンゴわい性台木の先駆的研究と JM 台木シリーズの育成

羽生田 忠 敬

古 谷 修:豚における栄養価評価法の開発とその応用

第25回 (平成23年度)

阿 部 亮:家畜飼料の栄養価評価法の確立と低・未利用資源の開発利用に関する研究

西 尾 敏 彦:新しい視点に立った我が国の農業技術史に関する研究

守 山 弘:農村の二次的自然による生物多様性保全機能の解明と成果の普及

第26回 (平成25年度)

荏開津 典 生:転換期の農業・食料問題及び政策形成に関する研究

岡 田 齊 夫:天敵微生物を用いた生態系調和型害虫防除法の研究

角 田 幸 雄:胚の顕微操作による新しい家畜改良技術の構築

第27回 (平成27年度)

太田原 高 昭:北海道農業の振興に果たす農協の役割に関する研究

堀 江 武:水稻の生育予測モデルの開発とアジア稲作の地球温暖化影響に関する研究

陽 捷 行:農耕地から発生する温室効果微量ガスの評価と削減技術の開発・普及

第28回（平成29年度）

岩崎 和 巳：農業用水路系の水理設計法に関する研究

岩元 睦 夫：食品の流通技術の改善・開発及び体系化に関する流通工学的研究

中村 保 典：イネ澱粉生合成過程の解明及び成果の農業への活用

第29回（令和元年度）

板橋 久 雄：ウシの第一胃内微生物消化特性の解明とその酪農技術への応用

大坪 研 一：米の品種判別および加工利用技術の開発

田村 俊 樹

：遺伝子組換えカイコの作出とその産業利用の技術的基盤の確立

瀬筒 秀 樹

第30回（令和3年度）

寺田 文 典：乳牛および肉用牛の精密栄養管理技術の開発に関する研究

（受賞者氏名は五十音順）

受付	月 日
	No.

第31回（令和5年度）「日本農業研究所賞」受賞候補者推薦書

令和 年 月 日

1. 受賞候補者

氏名	(ふりがな) (年齢 歳) (生年月日 昭和 年 月 日生)
住所	〒 (電話番号 - -)

2. 推薦者

氏名あるいは代表者名 (ふりがな)	関係機関役職名
⑩	
住所	
〒 (電話番号 - -)	

3. 受賞候補者の略歴及び主な業績等

研究者としての 主な略歴 及び現職	
過去における 主な業績 (代表的なもの の5点位) (注1参照)	
過去に受けた 主な賞	

4. 研究業績の題名及び推薦理由

研究業績の題名	
推薦理由：農業の発展等のため優れた業績である理由を特に御記入願います（注2参照）	

(注1) 「過去における主な業績の記載方法」について

1. 論文・報告の場合

著者名、論文のタイトル及び所収されている学会誌等の名称、巻、号、頁数、発行年、発行機関（発行年は著者名の次でも可。ただし、発行年にかっこを付すること）等とします。次の点に留意し、記載して下さい。

- ① 複数の著者のものは、学会誌等に掲載されたときの順に厳格に従って表記すること。なお、複数の著者の間について学会誌等で equal contribution とされている場合（複数の筆頭著者による論文である場合）は、その旨記載すること。また、「et al.」、「他」を使って他の著者を省くことは避けること。
- ② 掲載されている学会誌等の名称の正式名をフルネームで表記すること。
- ③ 学会誌等の発行機関の名称の正式名をフルネームで表記すること。

2. 著書の場合

著者名（編著者・编者）、タイトル及び出版社（発行機関）、発行年（著者名の次でも可。ただし、発行年にかっこを付すること）等とします。次の点を確認の上、論文・報告の場合と同様に記載して下さい。

- ① 著者名は、単著者、共著者、編著者、编者のように、発刊時に表紙等に、当該著書が誰によって書かれ、あるいは編集されたものか、あるいは分担執筆者、その別がわかるように表記されているのが通例です。受賞候補者が著書の執筆者としていずれに該当するか発刊時の表記方法に厳格に従って表記して下さい。また、著者、編著者等が複数以上ある場合については「他」、「et al.」を使って省略せず発刊時の表記に従い、全員を表記して下さい。
- ② 受賞候補者が当該論文の章などの一部のみの執筆を分担し、著書の編著者、编者に表記されていないもの（分担執筆者）については、執筆者（この場合は受賞候補者）、章のタイトル、著書名、当該著者が執筆した章、発行年、出版社（発行機関）とします。著書名の前に編著者、编者名を付して下さい。
- ③ 設計基準書のような技術書（マニュアル等）や官公署の報告書のようなものについては、発行機関、タイトル、発行年を表記し、候補者がどの部分を執筆担当したかがわかるように付記して下さい。

(注2) 「推薦理由の記載方法」について

1. 800～1000 字程度で御記入下さい。

2. 推薦理由については、研究業績として優れているばかりでなく、わが国農業の発展等に貢献するものであることを、出来るだけ具体的にお書き下さい。例えば、自然科学系の場合には、当該業績が普及指導センター等を通じ、ある地域、部門の農業分野に実際に利活用されたこと、あるいは、食品加工・製造・流通等に取り入れられたこと等。また、社会科学系の場合には、当該業績が広く農家や一般国民に紹介されるとともに、日本農業に対する理解を深めることに貢献したこと等を具体的に記載して下さい。